

宇宙開発の現状報告

(平成 23 年 7 月 27 日(水曜日)～平成 23 年 8 月 2 日(火曜日))

平成 23 年 8 月 3 日
宇宙開発委員会事務局

宇宙開発に関する国内の動向

- 準天頂衛星初号機「みちびき」のルビジウム原子時計の冗長系切り替えについて

7 月 29 日(金曜日)、JAXA は、平成 22 年 9 月 11 日に打ち上げられた準天頂衛星初号機「みちびき」において、7 月 28 日 21 時 43 分(日本時間、以下同じ)、ルビジウム原子時計 1 が異常となり、正常な測位信号が生成できなくなったため、直ちにアラートフラグが設定されたと発表した。その後、7 月 28 日 22 時 07 分に、冗長系のルビジウム原子時計 2 に切り替えを実施し、正常動作を確認後、「みちびき」の精度等に影響がないことを確認した上で、7 月 29 日 4 時 05 分に、アラートフラグ解除を実施した。

測位信号の生成には 2 台中 1 台の原子時計を使用しており、1 台機能停止しても「みちびき」の機能・性能には影響しない。現在、衛星の状態は正常で、測位信号の提供を正常に継続している。今後、技術実証を行いながら原因究明を進めていく。

- 国際宇宙ステーション利用シンポジウムの開催について
7 月 31 日(日曜日)に JAXA は「国際宇宙ステーション利用シンポジウム～日本の復興・再生に向けた貢献～」を東京丸の内丸

ビルで開催、約 200 名が参加した。日本が国際宇宙ステーション計画に参加して得た経験や培った技術、「きぼう」日本実験棟の利用が、これからの安全な社会創りに向けてどのような役割を担えるのか等について、講演やパネルディスカッション(若田宇宙飛行士等がパネリストとして参加)が実施された。

- 宇宙と話そう！銀河教室の開催について
8 月 1 日(月曜日)に毎日新聞社は「宇宙と話そう！銀河教室」を開催した。宮城会場(東京エレクトロン宮城本社)、JAXA 筑波宇宙センターの 2 会場と国際宇宙ステーション(ISS)を通信回線で結び、ISS に長期滞在中の古川聡宇宙飛行士と被災地の子どもたちが対話を行った。宮城会場には東日本大震災の被災者ら約 150 人が集まった。

宇宙開発に関する海外の動向

- 長征ロケット、航行測位衛星の打上げに成功 【中】
7 月 26 日(火曜日)21 時 44 分(世界標準時、以下同じ)、中国は、西昌衛星発射センターより、長征 3A ロケットを打ち上げ、航行測位衛星「北斗 2 号シリーズ」9 機目の軌道投入(静止トランスファ軌道)に成功した。
- 長征ロケットによる技術試験衛星の打上げに成功【中】
7 月 29 日(金曜日)7 時 42 分、中国は酒泉衛星発射センターより、長征 2C ロケットを打ち上げ、技術試験衛星「実践 11 号 B (Shijian-11B; SJ-11B; SJ-11-02)」の所定の軌道投入(地球低軌道)に成功した。